

第10回水稲病害虫発生予察結果

《生育状況》

5月上旬田植えの早生品種[コシヒカリ・キヌヒカリ等]

各地区ともに米粒の登熟が進み、早いところでは1穂のモミの9割程度が黄色くなっており、収穫の適期を迎えております。収穫の適期は各圃場で異なりますので、下記の図を参考にしてください。



左の図のように、1穂あたり90%以上のモミが黄色くなり、穂の下側に緑のモミが一部残っている頃が、収穫の適期です。

※収穫時期が早いと青米などの未熟米が多くなり、収穫時期が遅いと胴割米や着色米が多くなります。どちらも米の品質と食味を著しく低下させるので、適期に収穫するようお願いします。

5月下旬田植えの晩生品種[あいちのかおりSBL]

今回の調査では、早いところで穂揃期 [田んぼ全体の穂が90%程度の穂が出ている状態] になっておりました。この時期は籾を充実させるための水と根を健全に保つための酸素が必要な時期ですので、**間断灌水**（水の深さが2~3cm程度になるまで田んぼに水を入れ、田んぼの表面が見えたらまた水を入れる管理）を行ないましょう。

《各地区の主な病害虫発生状況》

今回の調査では、早生品種の一部の圃場にカメムシが発生していましたが、籾が硬くなっており収穫間近であればカメムシによる吸汁の心配はありません。籾が完全に硬くなっていない田んぼでは、カメムシによる食害の危険がありますので、薬剤による防除を行なってください。1度防除をしても、薬剤の効果が落ちてきた頃にカメムシが再来しますので、2度目の防除をお願いします。

晩生品種「あいちのかおり」では、出穂してから籾が硬くなるまでの間はカメムシの防除が必要ですので、下記の薬剤で防除を行なうようにしてください。カメムシの防除は穂揃期に1回、その7~10日後に2回目の防除を行なうようにして下さい。

病害虫名	薬剤名	10a 使用量	1回目防除時期	2回目防除時期
カメムシ	トレボン粉剤	3~4 kg	穂揃期	1回目の散布から7~10日後
	スタークル粉剤	3 kg	穂揃期	1回目の散布から7~10日後